



ホームシアター5.1chスピーカーシステム

NS-P320

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ホームシアター5.1chスピーカーシステム NS-P320をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

NS-P320の優れた性能を充分に発揮させると共に、未永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

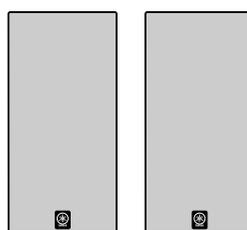
本システムは以下の製品で構成されています。

- メインスピーカー (NS-M104) X 2本
- リアエフェクトスピーカー (NS-E104) X 2本
- センタースピーカー (NS-C104) X 1本
- スーパーウーファー (SW-P201) X 1本

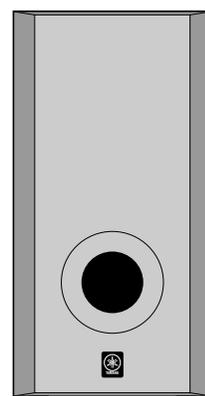
【NS-C104】



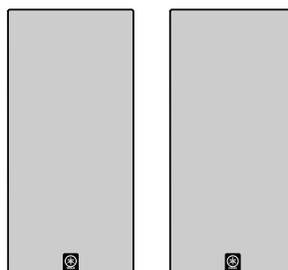
【NS-E104】



【SW-P201】



【NS-M104】



目次

特長.....	2	スーパーウーファーの使い方	16
安全上のご注意	3	各部の名称とはたらき	16
スピーカーの設置	8	オートスタンバイ機能を はたらかせる	16
接続のしかた	12	音量バランスの調節	17
基本的な5.1チャンネルの接続のしかた	12	故障かなと思ったら	18
スピーカーコードのつなぎかた	15	仕様.....	19
		ヤマハホットライン サービスネットワーク	裏表紙

特長

●ホームシアターサウンド

5.1チャンネルホームシアターの音場再生用に設計されたスピーカーセットです。各スピーカー間の音質バランスを均一に保ち、自然な音のつながりを再現します。また、スーパーウーファーの重低音と各スピーカーの音のつながりが最適になるように設計されています。

●スーパーウーファーには豊かな重低音を再生する、アドバンスドヤマハアクティブサーボテクノロジー

ロジック  搭載

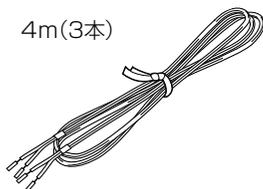
●スーパーウーファーの電源を自動でオン/スタンバイ状態に切替え可能

オートスタンバイ/感度スイッチの設定により、信号の有無を感知してスーパーウーファーの電源を自動でオン/スタンバイ状態に切り替えることができます。電源スイッチをそのつど押す手間が省けます。

付属品がすべてそろっているか、確認してください。

スピーカーコード

4m(3本)

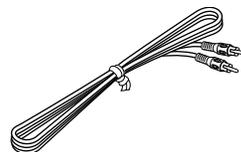


15m(2本)

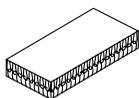


オーディオ接続コード

(1ピン、3m、1本)



固定テープ(センタースピーカー用、4個)



防振パッド(リアエフェクトスピーカー用、8個)

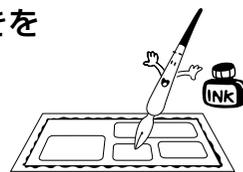


これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などが記入されていませんと、保証期間でも万サービスが必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

⚠️ 安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠️は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえば🚫は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば🔌は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を迫る可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のためスーパーワーマーを設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
 - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
 - あおむけや横倒しには設置しない。
 - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- (少なくともスーパーワーマーの背面から20cm以上離して設置してください。)

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

⚠ 安全上のご注意



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。



禁止

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



禁止

AC100V 50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。

火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

スーパーウーファーのポート(開口部)にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

スーパーウーファーの上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- スーパーウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



必ず行う

スピーカーコードは必ず壁等に固定する。

コードに足や手を引っかけるとスピーカーが転倒・落下し、故障したり、けがの原因となります。



必ず行う

取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に転倒・落下の可能性がないか安全点検を実施してください。
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

プラグを抜く



電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

必ず行う



電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

禁止



ポート(開口部)には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。

禁止



持ち運ぶときにはポート(開口部)に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

禁止



ポート(開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。

ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

注意



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止



センタースピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。

必ず行う

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

センタースピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



注意

リアスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。

- 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
- 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。
- 壁や天井に取り付ける場合、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用してください。正しい取付け方法をしないと、スピーカーが落下して、けがの原因となることがあります。



必ず行う

スピーカーとスピーカーブラケット・スピーカースタンドは必ず指定されたネジを使用して固定する。

スピーカーが落下すると、けがの原因となることがあります。



禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。

転倒・落下したり破損したりして、けがの原因となることがあります。



プラグを抜く

移動する場合は、アンプの電源スイッチを切り、接続コードを外してから行ってください。

転倒・落下して、けがの原因となることがあります。



注意

接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、アンプの電源を切り、説明に従って接続してください。



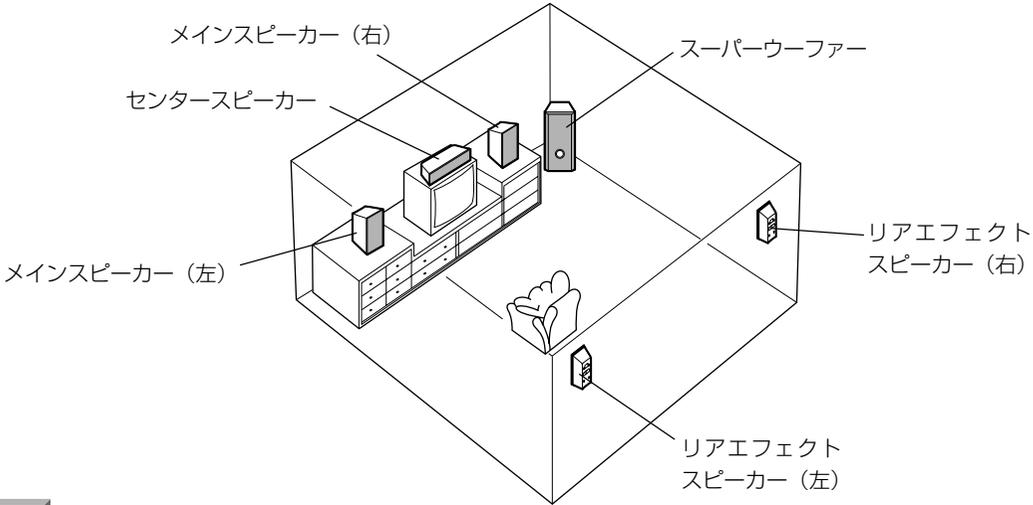
注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

スピーカーの設置

本スピーカーシステムは、メイン・リアエフェクト・センター・スーパーウーファースの合計6台のスピーカーで構成されています。それぞれのスピーカーは、下図のように設置すると最も効果的な音響効果が得られるように設計されています。



注意!

本システムは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

メインスピーカー

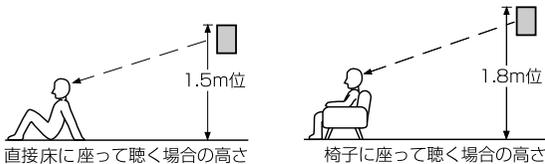
テレビの左右に設置します。

* スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

リアエフェクトスピーカー

お部屋の状況に合わせて、棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



センタースピーカー

テレビの上に設置します。

テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

* スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

スーパーウーファー

前方の左右どちらかに設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

スーパーウーファー設置上のご注意

- スーパーウーファーはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から20cm以上離して設置してください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、スーパーウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

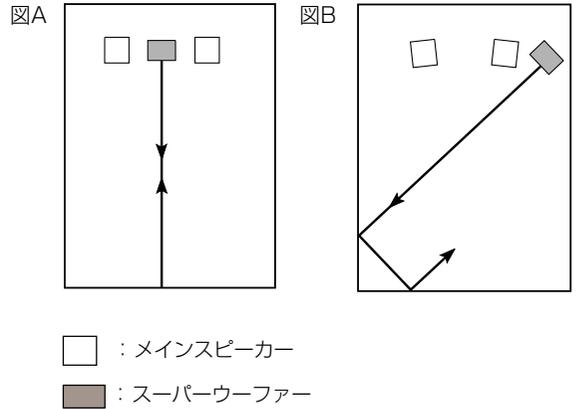
メモ

■ 超低音域は

音楽信号の超低音成分は、波長が長い為、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、スーパーウーファーは1台でも超低音域再生の効果は得られません。

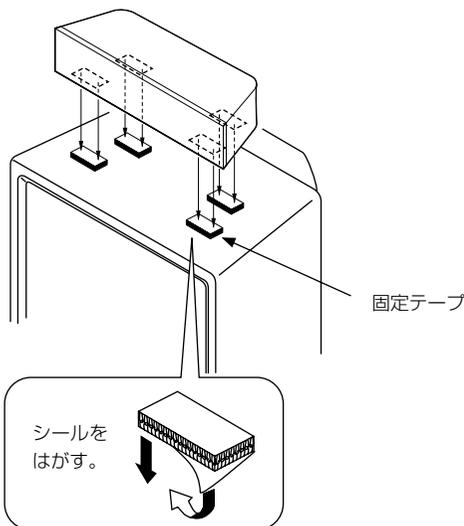
■ セッティング時の向きは

図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聴こえにくいことがあります。これを避けるため、スーパーウーファーは図Bのように斜めに設置すると効果的です。

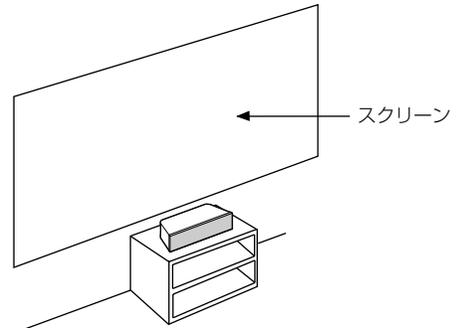


センタースピーカーをテレビの上に設置する

センタースピーカーをテレビの上に設置する場合は、必ず上面が水平なテレビをお選びください。もしテレビの上面が水平でない場合は、テレビラック内やテレビ真下の床など、必ず表面が水平な場所に設置してください。テレビの上に設置する際は、図のように付属の固定テープ(4個)をセンタースピーカー底面とテレビ上面に貼り、固定してください。



スクリーン使用の場合の設置例



注意!

(重要なご注意です。必ずお読みください。)

- スピーカー底面よりも面積が狭いテレビの上面には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 上面が傾いたテレビの上には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 固定テープのシールをはがした後は、接着面にはさわらないでください。テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。
- 固定テープを貼る前に、テレビの上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。

スピーカーの設置

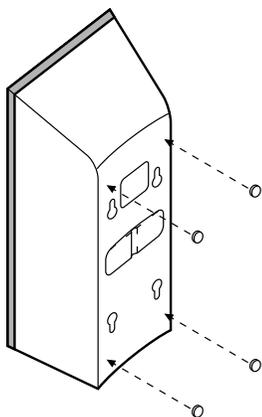
リアエフェクトスピーカーを壁に取り付ける

リアエフェクトスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、リアエフェクトスピーカー背面の穴を使います。

1

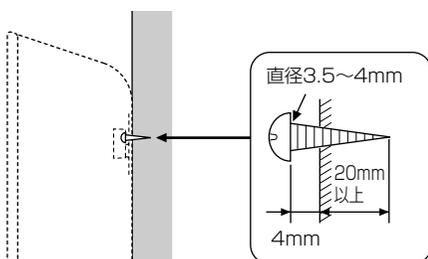
付属の防振パッドをリアエフェクトスピーカーの背面に貼り付ける

- 壁に掛けたときに、壁に当たる部分に貼り付けてください。



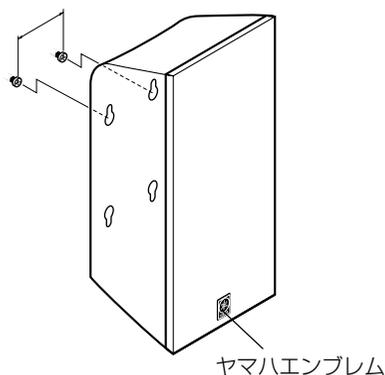
2

リアエフェクトスピーカーを掛ける場所に2本のタッピングネジ(市販品：直径3.5～4mm)を取り付ける

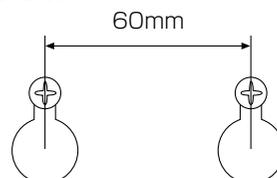


3

ネジの頭に穴を掛ける



- タッピングネジが、穴の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。
- 下側の穴を使って、リアエフェクトスピーカーを掛けることもできます。この場合はヤマハエンブレムの向きは逆さになりますが、エンブレムの向きを変えることはできません。



注意!

取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

注意!

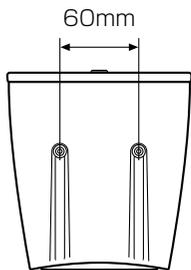
(重要なお注意です。必ずお読みください。)

- スピーカーの重量は1台約1.1kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーを釘や両面テープなどで取り付けしないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

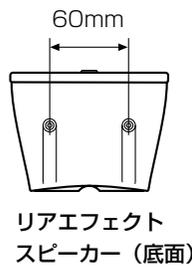
天井吊り用／壁掛け用スピーカーブラケット(ヤマハSPM-5など)やスピーカースタンドを使用するときは

メイン／リアエフェクトスピーカー底面または背面の穴(60mm間隔)を使い、スピーカーブラケットまたはスピーカースタンドをネジで固定する

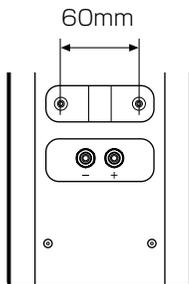
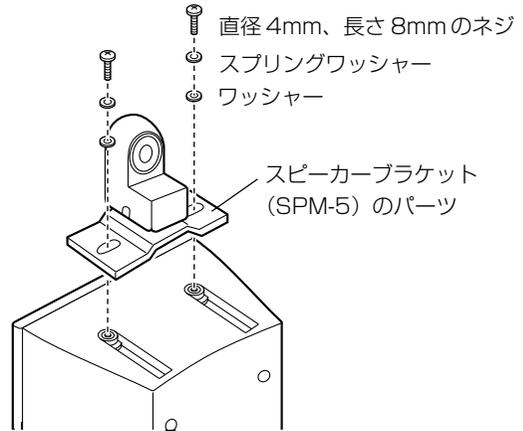
- 直径4mm、長さ8mmのネジと、スプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



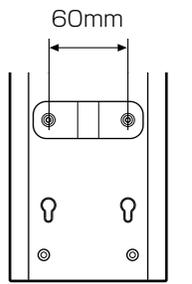
メインスピーカー
(底面)



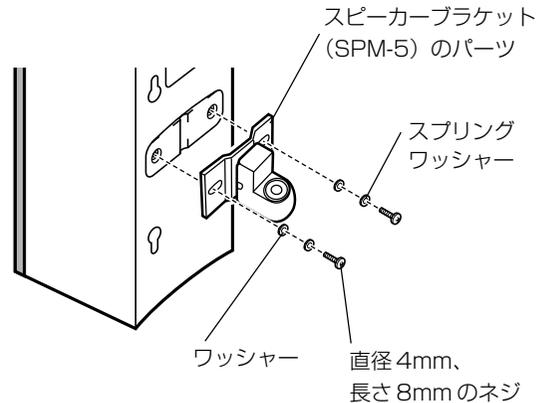
リアエフェクト
スピーカー (底面)



メインスピーカー
(背面)



リアエフェクト
スピーカー (背面)



取り付けの際は、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

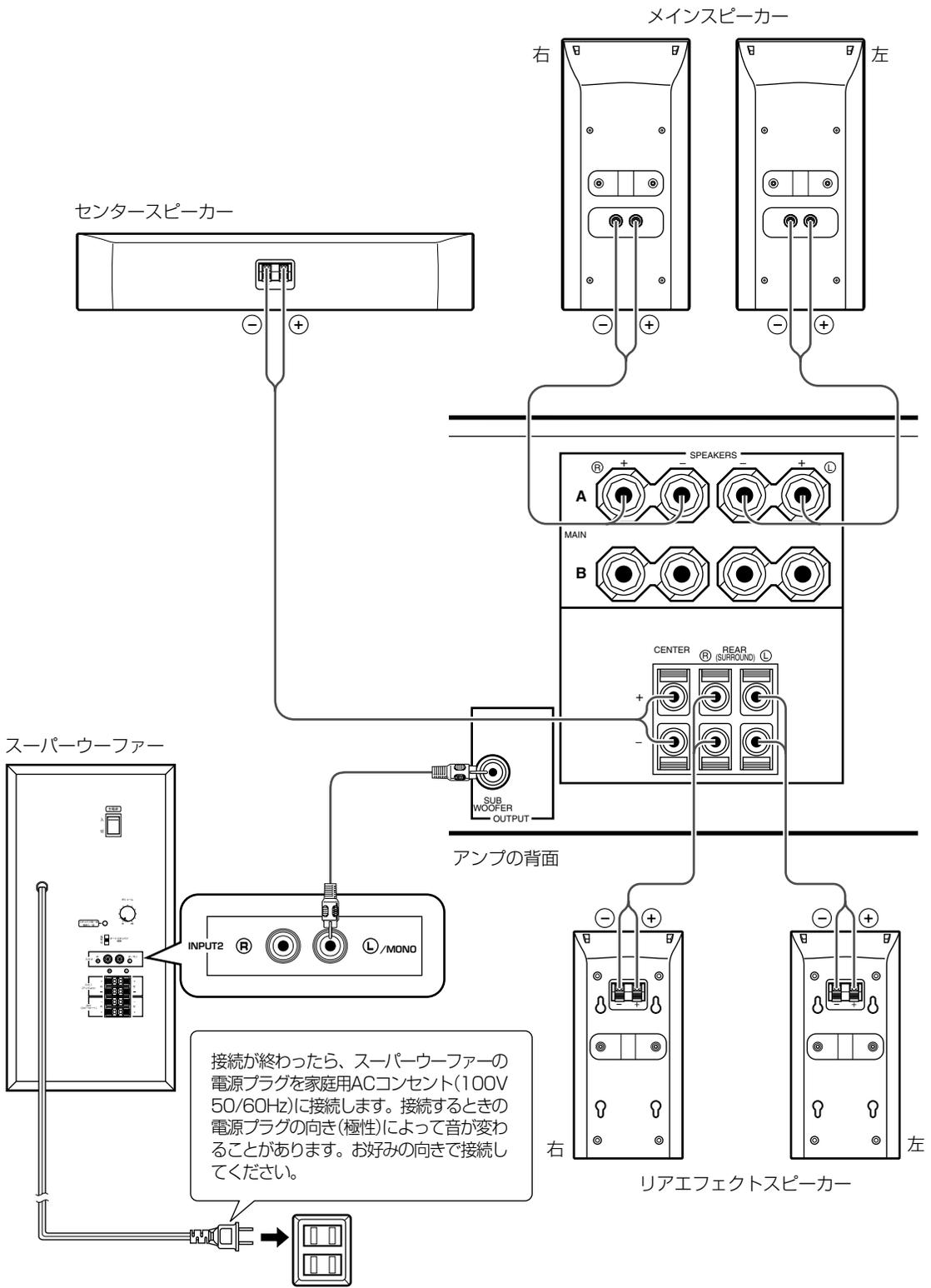
接続のしかた

正しい接続のために

- 接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントから外したうえでおこなってください。
- 接続する機器(アンプ、レシーバーなど)によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子の左、右(L、R)や、極性(+、-)を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。
- 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

基本的な5.1チャンネルの接続のしかた

- メイン、センター、およびリアエフェクトスピーカーをアンプに接続するには、付属のスピーカーコードを使用してください。
スピーカーコード(4m) メイン/センタースピーカー用
スピーカーコード(15m) リアエフェクトスピーカー用
 - スーパーウーファーをアンプに接続するには、付属のオーディオ接続コードを使用して、スーパーウーファー背面の**入力2左/モノ**端子をアンプ(またはレシーバーなど)のスーパーウーファー出力端子(ピンジャック)に接続します。アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続してください。
 - アンプのスーパーウーファー出力端子が2チャンネル(㊶、㊷)の場合は、スーパーウーファーの**入力2左/モノ**端子をアンプ側の㊶端子へ、**入力2右**端子をアンプ側の㊷端子へ接続してください。
 - アンプにスーパーウーファー出力端子か、またはそれに代わるライン出力端子がない場合は、アンプのスピーカー出力端子に接続することもできます。(14ページ参照。)
- 注意!**
- スーパーウーファーの**入力2左/モノ**端子および**右**端子に入力した信号は、出力端子からは出力できません。



スーパーウーファーをアンプのスピーカー出力端子に接続する

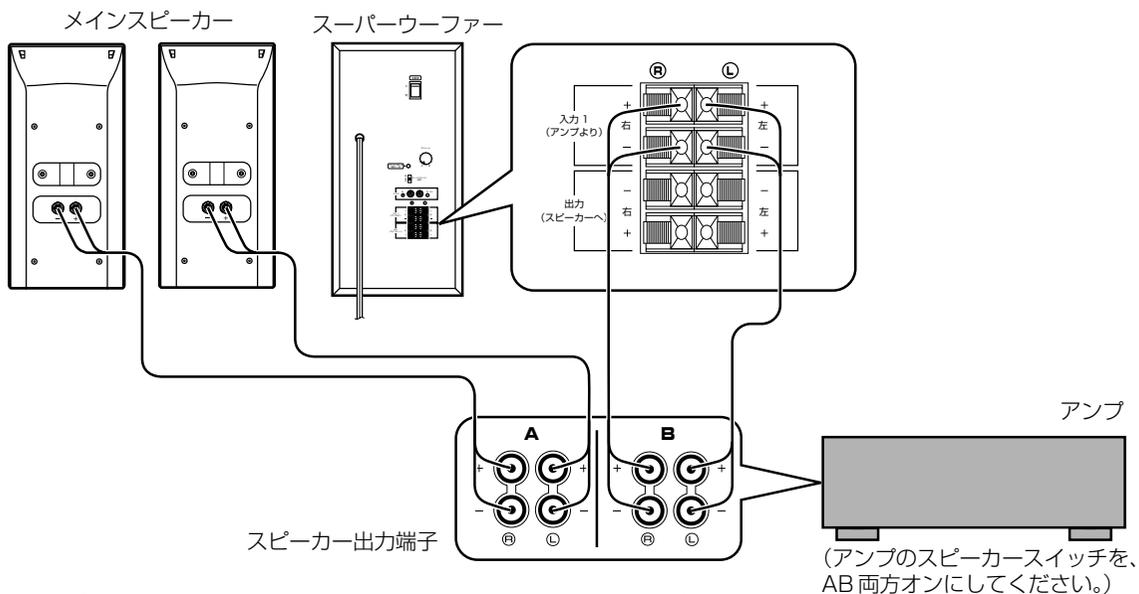
アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、下記の方法で接続してください。

アンプにスピーカー出力端子が2系統(A、B)あり、2系統から同時出力が可能な場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、もう一方のスピーカー出力端子に接続します。

アンプ側で、スピーカー出力端子2系統から同時出力するように設定します。

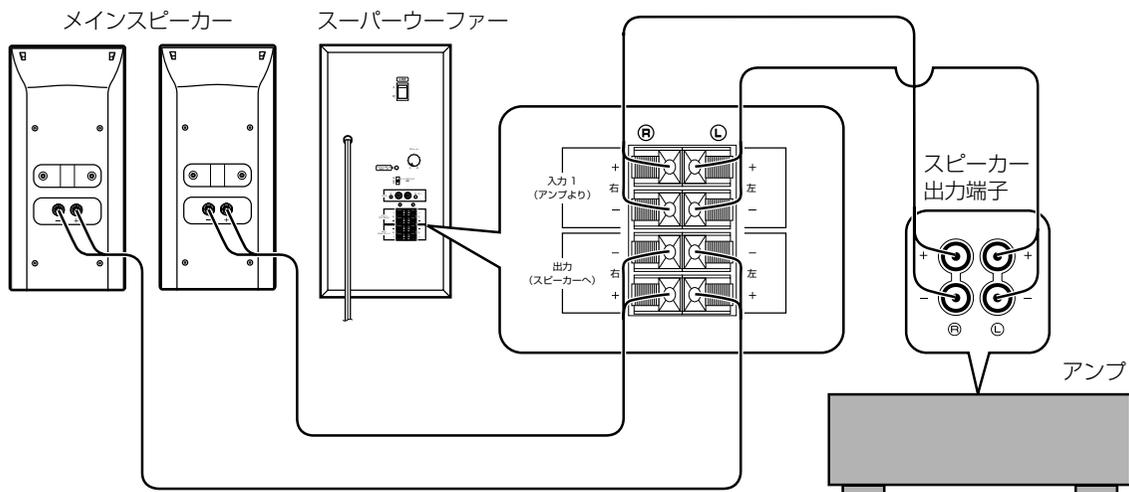
* アンプにスピーカー出力端子が2系統あっても、2系統から同時出力できない場合は、下記、「アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合」の方法で接続してください。



アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、スーパーウーファーの出力(スピーカーへ)端子に接続します。

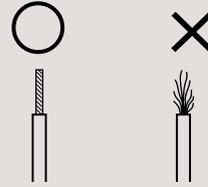
* メインスピーカーはスーパーウーファーを経由しての接続となりますが、音量、音質に影響を与えることはありません。



スピーカーコードのつなぎかた

接続する前に

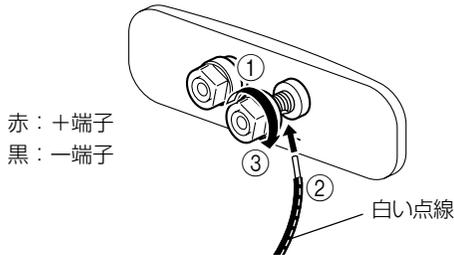
スピーカーコード先端の絶縁部分(ビニール)を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)



メイン、センター、リアエフェクトスピーカーにつなぐ場合

白い点線入りのコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。

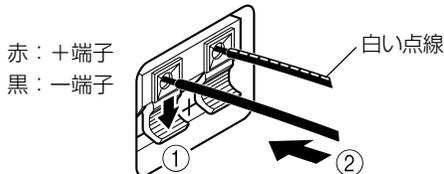
■ NS-M104(メインスピーカー)



- ① 端子を左に回してゆるめます。
- ② スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。
- ③ 端子を右に回して締めつけます。
芯線部分が穴からはみ出ていないかどうかを確認してください。

■ NS-E104(リアエフェクトスピーカー)

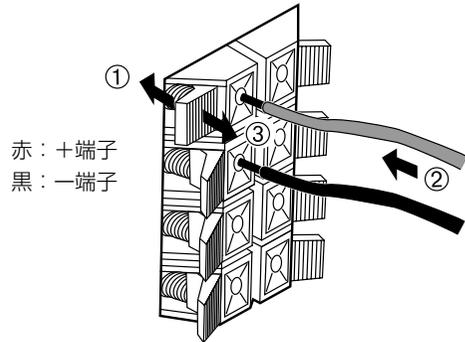
■ NS-C104(センタースピーカー)



- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込み、レバーを戻します。(指を離すとレバーが戻ります。)

スーパーウーファーの入力1または出力端子につなぐ場合

片方のコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。



- ① レバーを押しながら
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込み
- ③ レバーを戻します。(指を離すとレバーが戻ります。)

接続が終わったら、スピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

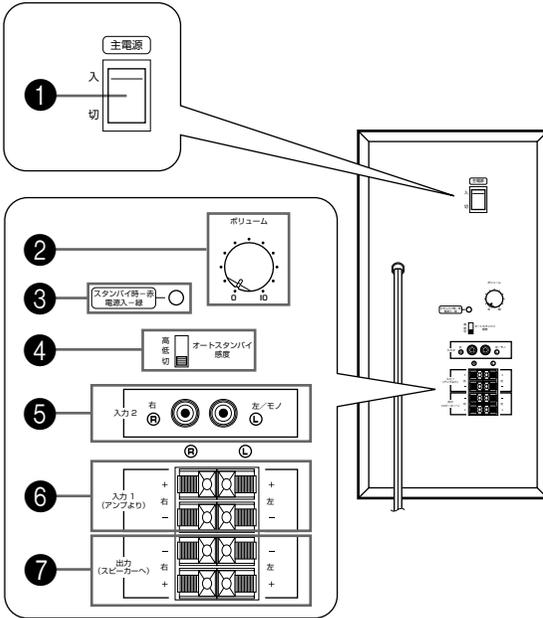
注意!

- スピーカーコードはプラス(+)とマイナス(-)を間違えないように接続してください。
- スピーカーコードはプラス(+)とマイナス(-)がショート(接触)しないように、しっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。

- スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分(ビニール)まで差し込むと音は出ません。
- スピーカーコードは手や足に引っかからないよう、固定してください。

スーパーウーファーの使い方

各部の名称とはたらき (スーパーウーファーの背面)



① 主電源スイッチ

「入」にするとスーパーウーファーの電源が入り、インジケーター(③)が緑色に点灯します。オートスタンバイ機能がはたらいているときは、インジケーター(③)は赤色に点灯します。

② ボリューム

スーパーウーファーの音量を調節するツマミです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

③ インジケーター

電源を入れると緑色に点灯します。ただし、オートスタンバイ機能がはたらいているときは赤色に点灯します。

④ オートスタンバイ/感度スイッチ

オートスタンバイ機能の入/切および感度を切り替えるスイッチです。

オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、「低」または「高」にします。

⑤ 入力端子【入力2】

AVアンプのスーパーウーファー端子またはアンプのライン出力端子(PRE OUTなど)からの信号を入力する端子です。

⑥ 入力端子【入力1】

アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

⑦ 出力端子【出力】

⑥の入力端子【入力1】へ入力された信号をそのまま出力します。

メインスピーカーを接続する端子です。

オートスタンバイ機能をはたらかせる

オートスタンバイ機能は、使用中にアンプからの信号がなくなると自動的にスーパーウーファーをスタンバイ状態にし、再びアンプからの信号を検出すると自動的にスーパーウーファーの電源を入れる機能です。

オートスタンバイ機能は、オートスタンバイ/感度スイッチ(④)が「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらきません。(通常は「低」の位置にします。)

アンプからの入力信号^{*1}がない状態が7~8分^{*2}続くと、自動的にスタンバイ状態になります。

(オートパワーオフ)

* このとき、インジケーター(③)は赤色に点灯します。



再びアンプからの入力信号^{*1}を受けると、自動的に電源が入ります。

(オートパワーオン)

* インジケーター(③)が緑色に点灯します。

*1: オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、200Hz以下の低音成分(アクション映画の爆発音、ベース、バスドラムの音など)です。

*2: 使用する環境によっては、周辺機器からのノイズなどの影響を受け、切り替わるまでの時間が変動することがあります。

メモ

● オートスタンバイ機能は主電源スイッチ(①)が「入」になっているときにはたらきません。

- オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、**オートスタンバイ/感度スイッチ(4)**は「低」の位置で使用しますが、電源の入/切が切り替わりにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。
- 使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、**オートスタンバイ/感度スイッチ(4)**を「切」にして、**主電源スイッチ(1)**で入/切してください。

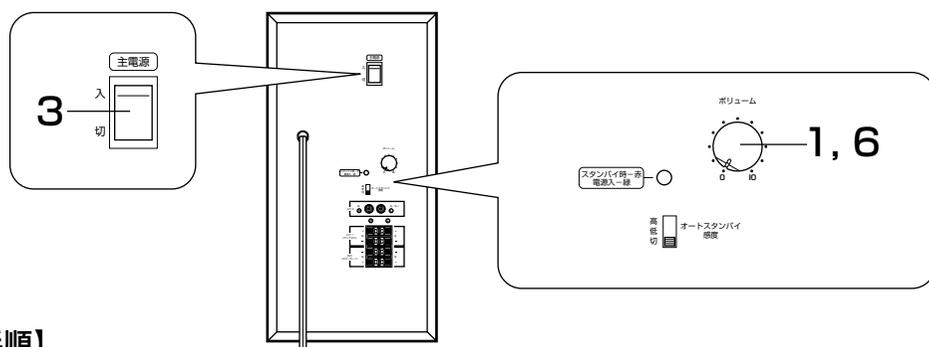
注意!

- スタンバイ状態のとき、スーパーウーファーは微量ながら電力を消費しています。長期間スーパーウーファーを使用しない場合は、スーパーウーファー背面の主電源スイッチを「切」に設定するか、または電源プラグをコンセントから抜き、スーパーウーファーの電源を完全にオフにしてください。
- **オートスタンバイ/感度スイッチ(4)**を切り替えるときは、スーパーウーファー背面の**主電源スイッチ(1)**を「切」にしてください。

音量バランスの調節

接続が完了した後、効果的な低音再生をするために、メインスピーカーとスーパーウーファーの音が自然につながるように音量バランスを調節します。

一度バランスを調節した後には、アンプ側の音量調節だけで全体の音量を調節できます。



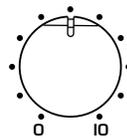
【調節手順】

1. スーパーウーファーのボリュームを最小(0)にします。
2. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. スーパーウーファーの電源を入れます。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. メインスピーカーの音量をアンプの音量調節で調節します。通常お聴きになる音量にします。(調節中はアンプのトーンコントロールなどはフラットにしてください。)
6. スーパーウーファーのボリュームを徐々に上げていき、メインスピーカーとの音量バランスを調整します。スーパーウーファーがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

参考

本スピーカーセットを5.1チャンネルホームシアター用に使用する場合は、スーパーウーファーのボリュームつまみを「5」(中央)の位置にセットすると、最適な音量バランスが得られます。

ボリューム



注意!

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた「バタ付き」現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、スーパーウーファーの主電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
音がでない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
音が小さい。または音像が安定しない。	スピーカーの接続で、LとRや極性(+、-)が合っていない。	スピーカーのLとRや極性(+、-)を正しく接続しなおしてください。

SW-P201のみ

スーパーウーファーの電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	スーパーウーファーの主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的に電源が入ってしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ感度スイッチを「切」にしてください。
ソースの再生が終わっても自動的にスタンバイ状態にならない。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ感度スイッチを「切」にしてください。
	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
ソースの再生が始まっても自動的に電源が入らない。	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的にスタンバイ状態になってしまふ。	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	スーパーウーファーの設置位置を変えてみてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音がでない。	スーパーウーファーのボリュームが最小(0)になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音が割れる。	アンプからの入力信号が大きすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を下げてください。

仕様

メインスピーカー

型名	NS-M104
型式	2ウェイ・パスレフ防磁型
スピーカーユニット	12cm コーンウーファー 2.5cm バランスドームツイーター
インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	70 Hz~28kHz
許容入力	50W
最大入力	160W
出力音圧レベル	89 dB/2.83V/ m
外形寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	140×300×167mm
重量	1.9kg×2台

センタースピーカー

型名	NS-C104
型式	2ウェイ・パスレフ防磁型
スピーカーユニット	7cm コーンウーファー×3 1.5cm ツイーター
インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	95 Hz~20kHz
許容入力	70W
最大入力	180W
出力音圧レベル	91 dB/2.83V/ m
外形寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	440×85×122mm
重量	1.7kg

リアエフェクトスピーカー

型名	NS-E104
型式	フルレンジ・パスレフ型
スピーカーユニット	10cm コーンフルレンジ
インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	110 Hz~20kHz
許容入力	30W
最大入力	110W
出力音圧レベル	91 dB/2.83V/ m
外形寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	120×250×92mm
重量	1.1kg×2台

スーパーウーファー

型名	SW-P201
型式	アドバンストヤマハアクティブ サーボテクノロジー方式
スピーカーユニット	16cm コーン、防磁型
アンプ出力	50W/5Ω
入力感度	
入力1	1.2V
入力2	55 mV
入カインピーダンス	
入力1	4.7 k Ω
入力2	12 k Ω
再生周波数帯域	30 Hz~200Hz
電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	32W (スタンバイ時: 6W)
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	200×395×384mm
重量	9.3kg

付属品

- スピーカーコード(4m)×3
- スピーカーコード(15m)×2
- オーディオ接続コード(3m)×1
- 固定テープ×4
- 防振パッド×8

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**
お買上げ日より1年間です。
- **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
 - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
 - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
 - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修性能部品の最低保有期間**
補修性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- **製品の状態は詳しく**
サービスを依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エイジングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせ

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ
<http://www.yamaha.co.jp/audio/>